

明治十六年十一月十日

文書局

官報ハ我邦創始ノ業ニ係リ事務極メテ繁劇ナルノミナラス日々時ヲ刻シテ事務ヲ執リ且退
出時限ニ拘ラス毎日必ス一部ノ官報ヲ編輯セ
サルヘカラス今本局常務ノ各官廳通常局課ニ
異ナル所一二ノ例ヲ舉シレハ

第一暑中ト雖通常ノ休暇ヲ為スコトヲ得ス
第二毎土曜日及暑中各官廳一般ニ十二時退
散ノ時ト雖本局ノ退出ハ午後三時後遅キハ
四時五時ニ至ルヲ常トス第三編輯員ハ印刷

局へ出張シ大抵午後十時前後迄校正ノ事務
 ラ執リ日曜日ト雖印刷局へ出張スル者ハ午
 前ヨリ午後十時前後迄勤務セサルヲ得ス
 右ノ如ク本局事務ノ性質全ク一種特別ノ者ニ
 有之候就ラハ特別ノ手当トシラ奏任官ハ一ケ
 年貳百圓以内判任官ハ百圓以内ノ金額特別ノ事
 務ニ因リ下賜可相成手当ニケラ慰勞ニ
 儀ニ候ハハ毎月又ハ三ケ月毎ニ下賜相成度
 存候ニ月ノ手教度若クハ年未便取纏メ六月
 相成度下賜相成候様特別ノ御詮議ヲ以御聞
 相成度此段相伺候也

本紙統計院長伺書ハ山弘系儀上申
 書ハ方趣ヲ以テ太政大臣公ヨリ返付
 七月廿一日

内務部